

# WasadaHill

Vol. 2

2021



〔令和3年度高知県高等学校体育大会 女子カヤックシングル1位〕  
〔第17回四国高等学校カヌー選手権大会 女子カヤックシングル2位〕

カヌー部 岡村希実（3年普通科）

## 実力者倒しV！堂々のインターハイへ！

カヌーとは外部の動力を用いず、人の手でパドル（オール）を操り、操縦者の前方に進む舟のことである。水のあるところであれば、海・川・湖と、場所を選ばず楽しむことができる。前方に進む、というところが、公園のボートなどとは異なる。須崎総合高校カヌー部は浦ノ内湾の最奥部にある須崎市立スポーツセンターカヌー場で練習を行っている。外海からかなり入り込んだ場所にあるため海面は大変穏やかで、四季折々の野鳥や植物を見ることができるこのカヌー場で3年間努力を続け、令和3年度高知県高等学校体育大会において輝かしい成績を収めた岡村希実（3年普通科）さんにインターハイに向けた意気込みを聞いた。



### 写真判定、インターハイをかけた再レース！

5月22日・23日に行われた令和3年度高知県高等学校体育大会女子カヤックシングル決勝レース。予選を通過した岡村の決勝の相手は、3年間500mのレースでは一度も勝ったことのない学芸高校のライバル選手と、昨年度の日本選手権で4位の実力をもつ嶺北高校の選手。

これまでならもっと離されているところをスタートから練習通りのレース展開で、ラスト150mまで先頭の選手と半艇身差で入ってきた。最後の150mからスパートをかけ、先頭と並びゴールした。ゴールした瞬間は3艇のどれが1位なのか全く分からないほど接戦だった。写真判定となり、岡村と学芸高校の選手が同着1位という判定になった。

しかし、インターハイに行ける選手は各県1名のみということもあり、2艇でのインターハイ出場をかけた再レースが急遽行われることとなった。



「勝負の結果には練習だけでなく、  
普段の生活態度や行動が関わってくる。」  
**気持ちで勝ちとったインターハイ出場権！**

岡村は大会3週間前から身体の追い込み過ぎによって、免疫力が下がり、思うように練習が出来なかった。試合前であったが追い込む練習を止め、テクニックの向上を目的とした軽い練習に切り替えた。しっかりと練習が出来始めたのは大会10日前ぐらいからだ。テクニック向上の成果もありタイムが一気に上がり、これならいい勝負ができるという所までもってこられた。勝負の結果には練習だけでなく、普段の生活態度や行動が関わってくる。岡村の大会前の生活態度や行動、考え方、カヌーに取り組む姿勢を見ていると今回の県体は勝てると感じた。

精神論になるが、「勝ちたいと思う気持ちが強い方が勝つ」と言い聞かせて試合に臨ませた。岡村の体力と気持ちの強さには自信があったので再レースでは絶対に勝つだろうと思っていた。再レースの結果1秒差をつけ勝利することができ、インターハイ出場の切符を勝ち取ることができた。

県代表を勝ち取ったことで満足せずに、高知県代表として全国の舞台で結果を出せるようにこれからも頑張ってもらいたい、指導していきたい。

談：長井監督

### 「闘うからには、勝って恩返し」

〔カヌー部〕

**岡村 希実**（3年普通科）朝ヶ丘中卒

――県体に向けてどんな気持ちで練習をしていましたか？

県体の一か月前から県体のことしか考えていませんでした。負けたら終わっちゃうと思って勝つための練習をしてきました。お世話になった先生や親のためにも「恩は結果で返す」の気持ちで頑張りました。

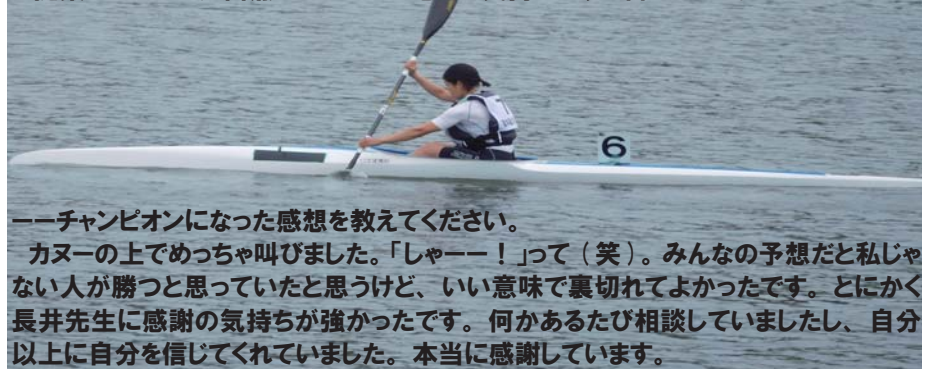
――県体決勝レースはどんな気持ちでしたか？

いつもなら差がつくと、あきらめてしまうんですけど、どうしてもインターハイに行きたかったのでほかの選手には勝たせないという強い気持ちで臨みました。



――3艇が同時にゴールをしてから再レースまでの心境は？

自分が勝ったと思っていました。でもなかなかリザルト（結果）がなくて、陸に上がってカヌーを片付けている最中、正直不安になりました。でも呼び出されて、再レースを提案されたとき、白黒つけてやろうと思って気持ちを切り替えました。



――チャンピオンになった感想を教えてください。

カヌーの上でめっちゃ叫びました。「しゃー！」って（笑）。みんなの予想だと私じゃない人が勝つと思っていたと思うけど、いい意味で裏切れてよかったです。とにかく長井先生に感謝の気持ちが強かったです。何かあるたび相談していましたし、自分以上に自分を信じてくれていました。本当に感謝しています。

――四国大会の結果についてはどうですか？

正直いうと、県大の結果に満足していませんでした。胸を張ってインターハイに出るために高知県勢で1番になるのが目標でした。だからいい結果が残せてよかったです。

――インターハイに向けての取り組みを教えてください。

圧倒的に変化をつけることですね。大きい変化で大きい成長をしたいんです。

――インターハイの目標と心境を教えてください！

目標は「入賞」です。全国の舞台では自分は無名です。でもそういう選手が勝つってかっこよくないですか？すごくドキドキしますが頑張ります！



～編集後書～

――昨年度末からの新型コロナウィルス流行により、部活動をはじめとする学校活動の制限が続く中、感染症に負けず自分たちの目標に向け確実に努力をしている生徒たちが須崎総合にはいます。本紙はそういったひたむきに部活動に励み、自己研鑽に励むチームや個人を紹介します。本紙で紹介する生徒のようにだれにも負けないと思えるものを須崎総合で作ってください。高校生活をどのように過ごすかは皆さん次第です。

